

海水マット ～外来生物対策～

Ranger
Tokyo Metropolitan Government

都 レンジャー NEWS

小笠原
母島版

Vol. 1



今回は、島民の皆さんがレンジャーをよく見る場所が港ということ、「はじめ丸の入出港立会い時に何をやっているのか？」を紹介させていただきます。

港では、主に「希少な動植物の密猟や盗掘の監視」をしています。その他に、海水マットを敷き、**靴底の泥を落とす**という事で「外来生物」の侵入阻止を試みています。

なぜ靴底の泥が問題になるのでしょうか？

靴底の泥の中には、植物の種子や目で見えぬ生物がたくさん潜んでいます。

いま集落周辺で見かける植物の多くは、「昔は見なかった種」だと聞きます。島に新しい植物が入ってきたことよって、かつてその場所にあった植物は姿を消してしまっただけです。この現象が島全体で起こってしまうたら、一体どうなるのでしょうか？

島に昔からあった植物がまったく見られなくなってしまう日が来るかもしれません。

私たちは、海水マットで泥を落とすことにより、新たな植物の種子や、ニューギニアヤリガタリクウズムシ（↓「外来生物情報コーナー」を参照）その他の動物の侵入を防ぎたいと考えています。

昔から島にいる生物を十年後も二十年後も見られるように、

靴底の泥落とし

にご協力下さい。



外来生物情報

ここでは小笠原には元々いない生物を紹介していきます。

ニューギニアヤリガタ

リクウズムシ



〈原産地〉ニューギニア

〈特徴〉・体長 最大10cm

・小笠原固有のカタマイマイ類

(天然記念物)を捕食

・一個体でも分裂し増殖可能

〈その他〉

・1995年に父島で初確認

・特定外来生物

本種は小笠原では父島だけで確認されています。そのため、父島ではカタマイマイ類が絶滅の危機に瀕しています。また多くのカタマイマイ類が生き残っている母島に侵入させないことが重要な課題です。

東京都では、はじめ丸入港時に海水マットを設置しています。海水に弱いため、侵入阻止には海水マットでの泥落としが効果的です。

都レンジャー豆知識

夜、部屋の電気をつけているとき、外で飲んでるとき。明らかに目指してやってくる、みなさんお馴染みの「ランプ虫」。



きつとほとんどの方が一度は目にしていないと思えます。潰れた液が皮膚に付くと水疱ができるというやっかい者(?)のイメージを持っている方も多いかもありません。

実はこのランプ虫、小笠原でしかみられない「固有種の昆虫」だということはご存知でしょうか。

正式な和名を「オガサワラカミキリモドキ」といいます。

決して綺麗とはいえない姿ですし、邪魔に思うこともあるかもしれません。ここでしか出会えない虫だと思つとちよつと愛着がわきませんか？

たまには寄ってきた虫たちをじっくり観察してみるのも良いかもしれませんね。

つぶやき

「はじめまして」から半年以上経って、やっと第二弾発行となりました！
多くの方に読んでいただけましたら嬉しいです。

